

論說

2022·1·25



## 日本への期待裏切るな

核禁条約 1 年

注目すべきは、日本両極、米英の「核の巣」の下にあるトランプが、昨年暮れ、圧力を受けながらも、核撃滅条約の締約国会議へのオーバー参加を表明したことだ。核保有国も参加するロードマップ検討会議は、ロードマップで再三重ねたとおりに実現され、二月に予定されている締約国会議は原爆生息場としている。

日本はなぜオーバー・パー・参加もできないのか、懲戒力ある理由は、専門家たちが、もしも被爆国として得た知見を発議の場で世界に伝える義務があるのではないか。

岸田文雄首相は被爆地・広島市長選出でありながら、オーバー・パー・参加に消極的だ。その代わりに、「国際原人会議」を組織して広島で開催することによって、世界の政治指導者に影響を及ぼす。民間への訪問も呼びかけているが、それだけでは満足しているが、それだけでは満足していない。

日本政府は「核の空白区」に向かって、あるいは機会主義をする必要がある。首脳は条約参加を認め、心に耳を傾け、せめどオーバー・パー・参加を実現すべきである。

実験禁止条約（CTBT）などと存の核保有国とは全く異なる。核保有国は核の傘に入っている国々は、核拡散約を「非営利的で役に立たない」として、冷ややかに拒絶を要めていた。ただ実効後の一年間で、世界のうねりはさすがに大きくなつた。各約批准国・地域は五十九に増加。日本では六十五以上の自治体が、日本政府に対して核拡散約への参加を求める趣意書を提出した。

ある日本による  
「相次ぐ」が  
「相次ぐ」。  
国際社説の  
期待を裏切  
つてはなら  
ない。

オ)の問題である。米英蘇連を始めとする諸國は、世界の金銀機関が核となるかに依存する所以である。世界の金銀機関が核となるべき組織の設立の大體的問題は、すでに述べた如く、日本、米国、英國の「協定」によって解決されたのである。日本は、昨年暮れ、庄内を發行したがゆえ、該協約の締結國會議への加入が一歩を踏み出したことになる。

日本ではなぜか、その理由は  
わからないが、階級力ある理由は  
異端だらう。むしろ被爆國にして  
て得た知見を公讃の場で世界に伝  
える機会があるのでないか。  
半日文部省は被爆國也。公讃

「あらわすがいい。オフサー、バ  
参出にすの酒禮だ。その代わ  
り酒類入鑑」を組織しては良  
い。政治家もこれいい。世界の  
講演を行ふ、中高の筋路も取  
かれてこらへ、それがなければ  
うな風景がうなづかる。お説

日本政府は「機会主義」を主張するに同意するが、必ずしも機会主義が必ず必要がある。理由は実業導向を決める前に耳を傾け、せめてオフホーリー参加を拒否すべきである。